

オアシス

Oasis

VOL. 55

性暴力への 偏見と誤解

◎特集



性暴力への 偏見と誤解

防止を妨げ、被害者を孤立させる性暴力神話

性暴力にまつわる話として、その真偽に関わりなく広く一般に信じられている流言を「性暴力神話」などと呼ぶことがあります。

日本だけでなく、世界各地で被害者自身や支援団体などは

性暴力被害の真実を知ってもらおうと、また実態を法律に反映させようと取り組んでいます。

しかし、性暴力にまつわる「神話」は根強く、

それが性暴力を助長し、被害者の回復を妨げています。

今回、テレビ番組制作を通して性暴力被害の実態に向き合ってきた

NHK「ハートネットTV」のディレクター、河野泉洋さんにお話をうかがいました。

性暴力被害を番組で 取り上げるきっかけ

性暴力被害を取材するきっかけは、NHKに入局して5年たち、東京に転勤して福祉番組に配属になったことです。担当番組で依存症をテーマとして取り上げることにになり、薬物とリストカットに依存する女性を最初に取材しました。依存症そのものについても自分の思い込んでいたこととは違ったのですが、その方にお話をうかがっている中で、小さい頃、祖父に体を触られていた経験話を話してくださいました。それが、私が初めて聞いた性暴力でした。本当に悔いが残ることですが当時の私はリストカット、薬物依存、性暴力被害を一度に聞いて全てを受け止め切れませんでした。中でも祖父から性暴力を受けるという事実に対して自分の日常とのあまりの違いに想像が追いつきませんでした。一番話しづらいことを打ち明けてくださったその方の思いを受け止められず、聞き流してしまった最悪な取材だったと思っています。

その後、依存症をテーマに何本か番組を作る過程で男女両方の当事者を取材しましたが、特に女性の方に両親からの身体虐待や、性虐待を受けた方たちがたくさんいました。その中で出会ったのが「ダルク女性ハウス」の上岡陽江さん「次ページ※1」でした。上岡さんに取材し、番組制作を続け、ある日次のテーマとして取り上げる依存症の話をしていた時に、番組制作を続ける理由と制作の意図を改めて問いただされたことがありました。アル

コールやギャンブル、薬物など症状そのものを取材するだけでなく、なぜ病気になるのか、その根幹にある問題を取りすべきだと言われたのです。それまでの取材から性暴力被害と虐待が病気の背景にあると思い、取材を始めました。これがきっかけです。

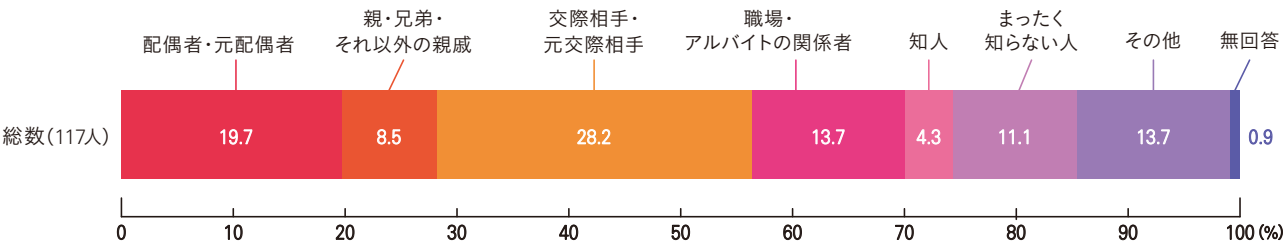
加害者は見知らぬ人？

それまでの私の性暴力被害のイメージは世間一般と同様、成年女性が夜道で突然被害に遭い、男性不信になるといったものでした。実際にそういった被害者の方もいます。ただ私が取材で会う被害者の方は違うことがほとんどでした。その中には未就学児の頃から、昼間に、家族から被害を受けていた人もいました。特に加害者は実父や兄、学校の先生、運動部のコーチ、バイト先の店長など身近な人たちが多かったのです。そのことを精神科医の小西聖子さん「次ページ※2」に話す「調査で見えた実態も同じです」と言い、こう続けられました。ほとんどの事例で加害者は顔見知り

で「図1参照」、家族である場合も多く、被害を受けた場所も大体住宅の中「図2参照」。夜道での被害は割合でみるとごくごく一部である、と。それだけでなく、女性の8割は痴漢・セクハラを含めると性暴力被害に遭っていること、それも社会人ではなく制服を着る中学生のころから被害に遭っていること、男性の性暴力被害者もいるなど、私自身も持っていた性暴力被害のイメージとはまったく違いました。

図1：加害者との関係

国の調査では「まったく知らない人」からの性暴力は11.1%で、約74%は家族や交際相手、職場仲間など知人から被害を受けています。



異性から無理やりに性交された経験(女性のみ)

上記の図では、下記のように一部の選択肢を合算して表記している。

親・兄弟・それ以外の親戚：「親(養親・継親も含む)」「兄弟(義理の兄弟も含む)」「上記以外の親戚」の合算

知人：「通っていた(いる)学校・大学の関係者(教職員、先輩、同級生、クラブ活動の指導者など)」

「地域活動や習い事の関係者(指導先輩、仲間など)」「生活していた(いる)施設の関係者(職員、先輩、仲間など)」の合算

また、下記の選択肢は、表記を省略している。

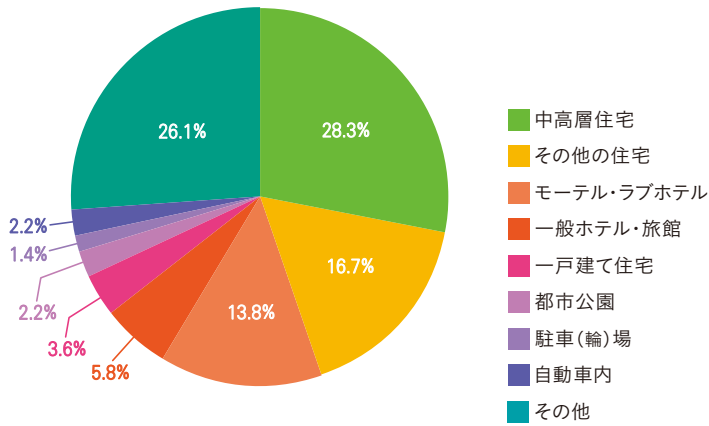
配偶者・元配偶者：配偶者(事実婚や別居中を含む)・元配偶者(事実婚を解消した者を含む)

職場・アルバイトの関係者：職場・アルバイトの関係者(上司、同僚、部下、取引先の相手など)

出典：男女間における暴力に関する調査(平成27年3月 内閣府男女共同参画局)

図2：強姦の場所別発生状況

住宅(一戸建て・中高層・その他の住宅)での発生が合計48.6%と多く、次いでモーテル・ラブホテル、一般ホテル・旅館となっており、屋内で多く発生しています。



出典：都内における性犯罪(強姦・強制わいせつ・痴漢)の発生状況(平成28年中) 警視庁ホームページ「こんな時間、場所がねらわれる」

性暴力被害をテーマにした 番組の反響

これまで全部で14本ほどの性暴力被害の番組を制作してきました。番組で性暴力に関する神話を明らかにして実像を伝えていくために、被害者の方に出演いただきました。そのほとんどが知り合いから被害を受けていました。男性の被害者や、家族間の性暴力の被害者にも出ていただきました。ご本人にとっても勇気のいることだったと思います。

特集テーマをもっと理解したい人に

◎**刑法の改正** 2017年6月、110年ぶりに性犯罪に関する刑法の改正案が国会で可決されました。

改正された具体的な内容

- ✔「**強姦罪**」を「**強制性交等罪**」に名称変更

これまでは膣性交の強要のみが「強姦」でした。改正により肛門・口腔性交が、「性交」に含まれることとなったため、女性以外の被害も強姦罪と同等に扱われるようになりました。
- ✔**強姦罪は親告罪から非親告罪に変更**

これまで被害者が告訴しなければ立件できませんでした。説得され訴えを断念するケースや、逆恨みした加害者に被害者が殺害される事件が発生するなど、被害者にとって告訴が大きな負担となっていました。
- ✔**監護者（親権を持つ人など）による性的行為に関する規定を設ける**

「強制性交等罪」の要件には「暴行・脅迫を用いて」がありますが、18歳以下の子どもに親などが性交をした場合、暴行・脅迫がない場合でも裁くことができます。
- ✔**強姦罪の懲役の下限が3年から5年に引き上げ**

今回の改正には施行3年後に見直しの検討を行うことが盛り込まれました。それに向けて、性暴力被害当事者や支援者団体は、今回は通らなかった改正（例えば、性交に同意できると考えられる年齢の引き上げなど）の実現をめざして議論を深めるべく取り組んでいます。

◎**もっと「性暴力神話」について知りたい**

Believeビリーブ～わたしは知ってる～キャンペーン

 性犯罪に関わる刑法の改正をめざすキャンペーン。2017年6月の改正を受けてキャンペーンはひとまず終了。3年後の見直しに向けて新たな形で続いています。ホームページでは「性暴力神話」について解説しています。

ビリーブキャンペーンを推進した団体（一社＝一般社団法人、特＝特定非営利活動法人）

- 明日少女隊**

 様々な性別の第4世代若手フェミニストによる、社会派アートグループ。「すべての性の平等がみんなの幸せ」をテーマに、日本の女性が抱える社会問題についての作品の発表や活動を展開しています。
- しあわせなみだ〔特〕**

 2047年までに性暴力をゼロにすることを目的に社会に働きかけ、性暴力に関する情報発信や啓発活動を行っています。
- ちゃぶ台返し女子アクション〔一社〕**

 ワークショップや政策提言を通じ、女性がより自分らしく生きられる社会を目指しています。大学生の性被害をなくすため、セクシュアル・コンセンスト（性的同意）[※]についての教材作成を計画しています。
- Spring（旧性暴力と刑法を考える当事者の会）〔一社〕**

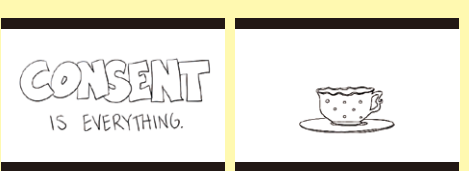
 性暴力の被害者や当事者意識を持つ人による団体。3年後の改正刑法の見直しに向けて決意を新たに新団体を設立し、国や議員への働きかけ、広報活動、イベントなどに取り組んでいます。

※セクシュアル・コンセンスト（性的同意）とは
性的な行為への参加に対する積極的な意思表示を意味している。性的な行為においては、必ず互いの同意があることを確認し、意思を尊重しよう、という考え。（「ちゃぶ台返し女子アクション」のプロジェクトページより）

◎**セクシュアル・コンセンストを理解するビデオ**



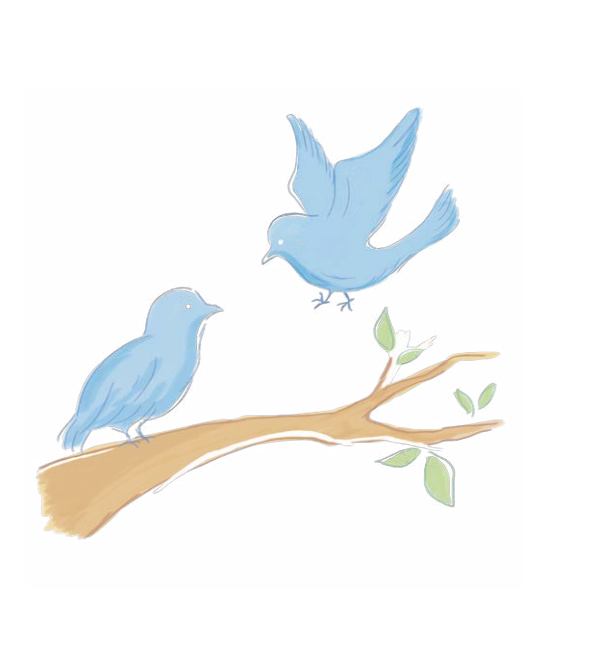
イギリスのBlue Seat Studioは性行為の同意についてのユーモアのある啓発用のアニメーションを製作しています。その中の一つ、「Tea Consent」（紅茶と同意）は、性行為における同意を紅茶におきかえて説明しています（日本語字幕もあり）。この動画は、インターネット上で反響があり、2016年SIMA（ソーシャル・インパクト・メディア・アワーズ／社会的影響を与えたメディア賞）の特別審査員賞を受賞しました。



Tea Consent © Blue Seat Studios 2016

最初に性暴力をテーマにしたのは、2009年、2日連続であわせて1時間の番組でした。3人の被害者の方と、ゲストとしてご自身も被害者だった小林美佳さん[※3]にスタジオに来ていただき、その3人の方の被害に関するVTRを見ながら話をする番組でした。当時は番組のSNSもなく、番組のホームページ宛てに感想を送っていたいていました。普段は感想もあまり来ないのですが、そのときは1週間で300通ほど寄せられました。ほとんどが「私もそうでした」「私だけではなかったんだ」といった視聴者自身の被害体験が書かれたものでした。知り合いから被害を受けたと言えない、その後にいろいろな症状が出て今も苦しんでいることなどが書かれていました。

よくドラマで性暴力の被害の後遺症として、男性恐怖症になるとか、性的なものへの嫌悪感が出るということが描かれます。そういう方も確かにいます。その一方で番組に出られた方の一人は、知り合う男性、知り合う男性と性的関係を持つてしまうと言っていました。彼女は怖くて、相手と対等であることを確認するために性行為をしてしまうといいます。また逆に「たくさんの男性と寝るような私は被害に遭っても仕方がない」と考えて自分の中で整合性をとっていました。取材で出会った方はこういった方が多かったのです。このような内容は偏見や差別を恐れ同性の友達にも、家族にも言えません。「こんなふうになるのは私だけだ」と思い込んでいた方が、番組を見て「私だけじゃなかった」と知ってメールを送っていたのだと思います。番組に出てくれた方を労う内容のメールもありました。



例えば、社会において家族とは「仲良くすべき・親は敬うべき」という考えが根強いのですが、一方で性暴力が日常にあり「家族から早く逃げたほうがいい」というケースも社会にはたくさんあります。その他にも常識と思われていることにそれでは生きていけない、場合によつては命を落としてしまう人がいることに社会としても気づかなければいけないと思います。

私自身はディレクターとして番組を作っていくことで、性暴力被害の実態をなるべく多くの人に知ってもらい、被害者の方が少しでも安心してSOSを出しやすい社会に近づけていきたいと思っています。

神話が事実ではないと十分に知れないのはなぜでしょうか？

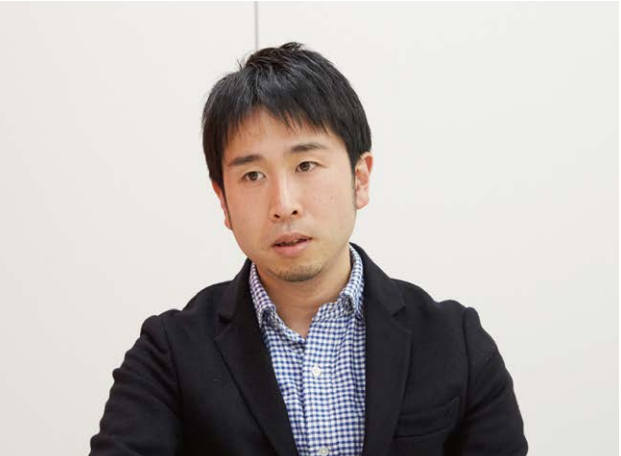
◎**インタビューの中で紹介された方たち**

- ※1 **上岡陽江さん**

薬物・アルコール依存症の女性たちの回復を支援するNPO法人ダルク女性ハウス代表。
著書に『生きのびるための犯罪（みち）』（イーストプレス）など。
<http://womensdarc.org/>
- ※2 **小西聖子さん**

精神科医、武蔵野大学教授。トラウマ治療が専門。性暴力被害者の支援に取り組む。
- ※3 **小林美佳さん**

自身も性犯罪被害者であり、実名を公表し性暴力被害の啓発活動に取り組む。
著書に『性犯罪被害にあうということ』（朝日新聞出版）
<http://www.micatsuki.com/>



河野泉洋（こうの いずみ）さん
2003年、早稲田大学商学部卒業後、NHKに入局し、5月に熊本放送局に赴任。2008年、NHK制作局文化福祉番組部に転勤。薬物依存症や性暴力被害をテーマに番組を制作。2013年、大阪放送局に転勤。『バリバラ』などでマイノリティの人たち取材し、番組を制作。2017年、NHK制作局文化福祉番組部に転勤し『ハートネットTV』班に所属。

お知らせ

「平成29年度港区ワーク・ライフ・バランス推進企業認定証交付式 & イクボスシンポジウム」を開催しました

港区では、仕事と家庭の両立支援や男女がともに働きやすい職場の実現に向けて、ワーク・ライフ・バランスに取り組んでいる中小企業を認定し、その取組を応援しています。

この度、平成29年度港区ワーク・ライフ・バランス推進企業が決定しましたので、港区長から「港区ワーク・ライフ・バランス推進企業認定証」を交付しました。また、イクボスシンポジウムも同日開催しました。



日時：平成29年11月17日（金） 14時～16時45分

場所：港区立男女平等参画センター リーブラホール

〔第1部〕「平成29年度港区ワーク・ライフ・バランス推進企業認定証交付式」

〔第2部〕「イクボスシンポジウム」

基調講演：小安 美和氏（株式会社 Will Lab 代表取締役）

取組紹介：寺上 美智代氏（トッパン・フォームズ株式会社執行役員総務本部長兼ダイバーシティ推進部長）、田中 咲氏（イオン株式会社ダイバーシティ推進室長）

◎平成29年度港区ワーク・ライフ・バランス推進企業 新規認定事業者

事業者名	認定分野			
	子育て支援	介護支援	地域活動支援	働きやすい職場環境づくり
イマジン・グローバル・ケア株式会社	○	－	－	○
株式会社日本エステートリサーチ	－	－	○	○
東京街路株式会社	－	－	○	－
株式会社waja	○	○	－	○
株式会社PIVOT	○	－	○	○
株式会社知識経営研究所	○	－	－	○

◎「イクボスシンポジウム」～女性リーダーが本音で語るイクボスとワーク・ライフ・バランスのその先へ～

イクボス〔※〕というと男性リーダーのイメージがありますが、今回はワーク・ライフ・バランスを推進してきた女性リーダー3名にご登壇いただきました。小安氏による基調講演は、「人生100年時代、これからの『イクボス』とは？」と題し、優れたイクボスの取り組み事例と、人生100年時代における10年、20年、30年後を見据えた「イクボス推進」のあり方についてお話いただきました。続いて、寺上氏と田中氏には、育児と両立できる社員やイクボスの育成に力を入れているそれぞれの企業の取組を紹介していただいた後、3人の対談が行われました。参加者からは「女性リーダーの時代の到来を実感した」といった声が聞かれました。



※イクボスとは
部下が育児と仕事を両立できるよう配慮したり、育休取得や短時間勤務などを行っても業務を滞りなく進めるために業務効率を上げ、自らも仕事と生活を充実させている管理職（性別は限らず）を「イクボス」と呼びます。

『ワンオペ育児 わかつてほしい休めない日常』

藤田結子著「毎日新聞出版」



今、政府は子育てしながら働く女性を後押ししています。就活・婚活・妊活・保活というタスクを完全にやり遂げた上で、職場ではバリバリ働き信用を得なければなりません。これらの負担が大きく母親にのしかかっているのが今の日本です。専業主婦、働く母親問わず、ワンオペ育児（すべての作業を一人でこなす育児体制）をする母親であふれています。著者は「父親がワンオペを経験する」、「家事・育児分担を『見える化』する」など具体的なワンオペ解消の対処法を挙げています。今の育児の在り方に疑問を感じている子育て世代はもちろん、今後家庭を持つ若者に是非読んでもほしい本です。

「区民協力委員 桐井慶子」

『結婚差別の社会学』

斎藤直子著「勁草書房」



ここである「結婚差別」とは結婚における部落出身者への差別。その結婚差別を研究した学術書です。部落も部落差別も最近は見えにくけれど、著者も言及するようにインターネットでは差別的、中傷的な記事が野放しになっていますし、その出自を理由に相手側の親や親戚が反対し差別されることもまだ多いのです。本書では、結婚差別は今も存在していることを多くの聞き取り事例によって明らかにしているだけでなく、その「乗り越え」についても考えています。聞き取った言葉で事例を紹介しているため、難しい本ではありません。

「区民編集委員 尾崎綱寛」

連載

日本語に潜む

第三回

「性別」記入のオプション色々

○水本光美
〔みずもとてるみ〕

- 北九州市立大学名誉教授
- 日本語ジェンダー学会理事
- ▶<https://tmizumoto.jimdo.com/>



私たちの日常生活には、「性別」を記入する必要がある場面が多数あります。パスポートや免許証をはじめ、履歴書、銀行口座の開設からクレジットカードやスーパーやコンビニのカードの入会フォームなどに至るまで、必ずと言っていいほど「性別」を選択する欄があります。「性別」の選択記入を求められることは、様々な場面での必須事項として一生ついてまわりそうです。

性別の多様性にいち早く対応したのはGoogle+で、2014年にはアカウントの性別は「男女」の他に「その他」と「回答しない」の4つの選択が可能になり、現在、日本語のGoogleでも「その他」の欄は自由記載となっています。私はフェイスブック（以後FB）を愛用していますが、その1年後にアメリカ英語版のFBではプロフィールの性別記入欄が「Gender（ジェンダー）」という分類名に変わり、さらに従来の「男女」の他に「カスタム」で選択肢を50種以上加えただけではなく、個人的に自由に記入出来るようになりました。当時、日本語版のFBではまだ「性別」は「男女」しかなかったのですが、現在では、「カスタム」で自分にぴったりの表現を自由記載できるようになっています。

では、日本語のSNSはどうでしょうか。日本語のSNS老舗であるmixiやAmebaは、残念ながら、現在でも「性別」は「男」と「女」だけのようです。ジェンダーは日本でも多種多様であり、「男女」のみの選択に戸惑う人びとも多いはずです。日本のSNSがこのテーマにいつ向き合うのか興味深いところです。

「次回「女子力ってなんですか？」

◎性暴力被害の相談窓口・情報

電話番号やメールアドレスはそれぞれのホームページをご覧ください。

○若草プロジェクト



ホームページ

SOSを心に抱えた少女や若い女性たちを支援するため、相談活動や「信頼される大人」＝支援者を育成する連続研修会を行っています。
[LINE・メール相談]

○性暴力救援センター・東京(SARCサーク東京)



ホームページ

性暴力被害直後からの中長期にわたる総合的支援を行うための拠点として設立され、性暴力や性犯罪の相談をワンストップで24時間受け付けています。
性暴力救援ダイヤルNaNa[電話相談]

○レイプクライシスセンター Tsubomi(ツボミ)



ホームページ

性暴力の被害に遭われた方の支援を行っています。
[電話・メール相談]

○東京・強姦救援センター



ホームページ

1983年、女性たちによって設立された日本で初めての強姦救援センターで、民間のボランティア団体。
[電話相談]

○警視庁ホームページ「性犯罪被害にあったら!」



ホームページ

性犯罪の被害に遭った場合の対応や、警視庁のホットラインの番号などの情報を掲載。



リーブラ相談室 心のサポートルーム 無料

電話相談

家族、仕事、生き方、働き方、夫婦・親子・友人などの人間関係、離婚、DV(ドメスティック・バイオレンス)、デートDV、LGBT、ハラスメントなど… どのようなご相談も受け付けています。

面接相談

- 相談の秘密は固く守りますので、安心してご相談ください。
- カウンセラーがあなたといっしょに考えていきます。
- 弁護士による法律相談もあります。(面接相談・月1回)

法律相談

ご相談・ご予約は

港区立男女平等参画センター リーブラ相談室 [専用電話] 03-3456-5771

月曜日から土曜日まで開室!
火曜日・金曜日は、夜も開室しています。

	月	火	水	木	金	土
午前10時—午後4時	●	●	●	●	●	●
午後6時—午後9時		●			●	

*日曜・年末年始・臨時休館日を除き、祝日も開室。
*相談は無料です。まずはお電話ください。
*面接相談と法律相談はご予約ください。

◎
今
号
の
表
紙



神宮外苑銀杏並木

1923年の植栽以来、外苑のシンボルとなった樹齢100年を超える並木道。300mにわたって、銀杏が146本、9m間隔で青山通りから樹高の高い順に植えられ、正面の聖徳記念絵画館へ続く道は、遠近法の効果で見事な景観美を創っています。

港区男女平等参画情報誌「OASIS オアシス」第55号
平成29年(2017年)12月発行(年4回発行)

発行: 港区立男女平等参画センター指定管理者
株式会社キャリアライズ
〒105-0023 東京都港区芝浦 1-16-1 みなとパーク芝浦

区民編集委員: 小野澤うばら、尾崎綱賀 区民協力委員: 桐井慶子
デザイン: 喜瀬みゆき、棚木尚子、宮田南 イラスト: 別府由実子(表紙)

港区立男女平等参画センター「リーブラ」

〒105-0023 港区芝浦1-16-1 みなとパーク芝浦2階
Tel.03-3456-4149 Fax.03-3456-1254
▶http://www.minatolibra.jp ▶Twitter: @minato_libra
[アクセス]

- JR「田町駅」東口(芝浦口) 徒歩5分
- 地下鉄浅草線・三田線「三田駅」A6出口 徒歩6分
- ちいばす 芝浦南ルート(品川駅港南口行)「みなとパーク芝浦」徒歩0分
芝浦港南ルート(田町駅東口行)「芝浦一丁目」徒歩4分
- 都営バス(田92・99)「田町駅東口」徒歩7分

